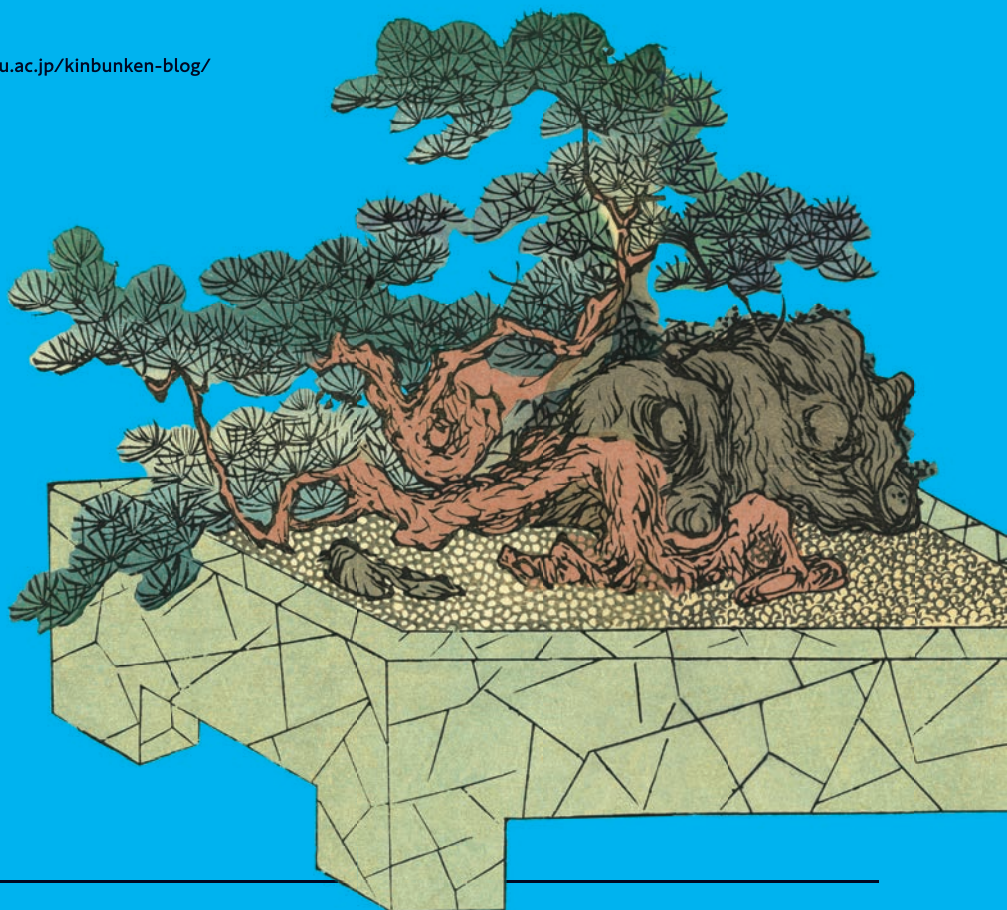


近現代〈盆栽趣味〉の広がり と性格 — 150年の流動性

THE SPREAD AND CHARACTERISTICS OF THE BONSAI HOBBY IN MODERN TIMES — 150 YEARS OF FLOW

第5回公開講座シンポジウム



2024年11月2日(土)

13:30~15:30 (開場:13:00)

● 会場／形式

昭和女子大学コスモスホール(対面) または Zoom(オンライン)
東急田園都市線「三軒茶屋」駅下車、正門まで徒歩7分

● 登壇者

早川 陽	近代文化研究所所員／昭和女子大学准教授
依田 徹	遠山記念館学芸課学芸課長／昭和女子大学非常勤講師
横山 詢	東京大学大学院学際情報学府博士課程
歌川光一	聖路加国際大学大学院准教授

● 申込方法



WEB 予約フォーム

<https://forms.gle/5fCHvgdcmKYiFJfs8>

※参加方法(対面とオンライン)による区別はありません

※ご氏名・連絡先(電話・FAX)・ご所属・ご年代をお知らせください。

参加費:無料 申込〆切:10月31日(木)

問い合わせ先:03-3411-5129

※お申し込みは原則フォームよりお願いいたします。対面をご希望でインターネットでのお申し込みが難しい方のみお電話でのお申し込みを受け付けます。

早川陽『盆栽趣味の広がりと性格』

ブックレット近代文化研究叢書18

本書は日本画の景色を研究対象とする著者が、近代に美術と文化に距離をとることになった盆栽とその趣味について、考察を進めたものです。

2024年／B5判／126頁／2200円

全国書店でのご注文、またはSHIP 昭和女子大学 BOOKS

(<https://swu-publisher.bookstores.jp/>)よりご購入いただけます。



近代の盆栽趣味は、江戸末期の大坂・京都の煎茶文化から生まれ、明治期に全国へ広まりました。特に江戸の園芸文化（江戸の盆栽）との融合により発展し、図書・雑誌の発行、専門業者「園」の登場、芸術論の影響と展覧会開催など、盆栽文化は大きく花開きました。大正期には現代の盆栽概念が定着し、以降、変化を伴いながら根強い人気を博しています。

2024年3月に刊行された、早川陽著『盆栽趣味の広がりと性格』を機に、本シンポジウムでは盆栽研究の新たな展開を目指します。早川による研究背景と成果の紹介から、依田徹氏「文人趣味と盆栽」、横山詢氏「最初期の社会教育論者・山名次郎の盆栽普及活動」、歌川光一氏「20世紀日本の「趣味」と教育・学習」を報告し、文人趣味、社会教育、20世紀の趣味と教育という多角的な視点から盆栽趣味を論じます。

本シンポジウムでは、明治のはじまりから150年、大宮盆栽村開村100周年（2025年）を控え、改めて盆栽が日本の文化に与えた影響を考えます。植物を介した趣味活動が、時代を超えて人々に愛され、生活文化として根付いた背景を探り、価値の創造から現代のインバウンドまで、盆栽がどのように変遷し、今なお人々を魅了し続けるのかを考察します。多数のご参加を心よりお待ちしております。

プログラム

司会・進行：重松優（近代文化研究所／昭和女子大学准教授）

13:00 開場

13:30—13:35 開会挨拶

13:35—13:40 シンポジウムの論点

● 報告1
13:40—14:00 「盆栽趣味の広がりと性格」
早川陽（近代文化研究所）

● 報告2
14:00—14:20 「文人趣味と盆栽」
依田徹（遠山記念館）

● 報告3
14:20—14:40 「最初期の社会教育論者・
山名次郎の盆栽普及活動」
横山詢（東京大学大学院）

● 報告4
14:40—15:00 「20世紀日本の「趣味」と教育・学習」
歌川光一（聖路加国際大学）

15:00—15:25 パネリスト意見交換・質疑応答

15:25—15:30 閉会挨拶

早川陽

近代文化研究所所員／昭和女子大学准教授

1978年、東京都生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科美術専攻芸術学研究領域美術教育研究分野、博士後期課程修了。博士（美術）。近代絵画としての日本画の景色「風景画と山水画のズレ」に盆景性（盆栽性）があることを考察した著書『藝術と環境のねじれ—日本画の景色観としての盆景性—』（清水弘文堂書房、2013）がある。盆栽趣味を研究対象に『盆栽趣味の広がりと性格』（昭和女子大学出版会、2024）を発行した。

依田徹

遠山記念館学芸課学芸課長／昭和女子大学非常勤講師

1977年、山梨県生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科芸術学専攻、博士後期課程修了。博士（美術）。元さいたま市大宮盆栽美術館学芸員。日本近代美術史、茶道史を専門とする。昭和女子大学歴史文化学科で茶道文化史を担当。盆栽に関する著書『盆栽の誕生』（大修館書店、2014）、『盆栽 BONSAI』（角川ソフィア文庫、2015）、『極小の庭—盆栽』（生環境構築史『特集：構築4の庭へ』第4号、2022）がある。

横山詢

東京大学大学院学際情報学府博士課程

1997年生まれ。東京大学大学院教育学研究科生涯学習基盤経営コース修士課程修了。修士（教育学）。2024年4月より、東京大学大学院学際情報学府文化・人間情報学コース博士課程。専門は社会教育学・生涯学習論、教育思想史。植物・自然物を含めた美的・芸術的なものによって触発される人間の言動に広く関心がある。近代日本の文化ナショナリズムと盆栽文化の変容との相互的な関係性に着目して研究を進めている。

歌川光一

聖路加国際大学大学院准教授

1985年生まれ。京都大学、東京大学大学院で教育学を学ぶ。博士（教育学）。学習院大学、マンチェスター大学、昭和女子大学の所属／勤務を経て、聖路加国際大学大学院准教授。近代日本において音楽はいかに趣味／たしなみとして女子に受容されたのかを示した著書『女子のたしなみと日本近代：音楽文化にみる「趣味」の受容』（勁草書房、2019）の他、教育学、余暇・レクリエーションの観点から研究を広げている。

